

研究No. (記載不要)	— —
-----------------	-----

平成 25 年度配分 研究成果発表報告書(実績)

研究名	紙とデザインのいままで、これから① 製紙産業とパッケージデザインをめぐっての基礎的研究 (近現代史概略)				
配分を受けた 特別研究費	特別研究費 900 千円				
研究者氏名 (代表者)	学部名	学科名	職	氏 名	共同研究者
	デザイン学 部	生産造形学 科		佐井国夫	他 1 名
発表の方法	1 紀 要 名 称:		号 数	第 号 (頁～ 頁) (年 月発行)	
	2 学会等での発表 学会等名:芸術工学会誌 68 号		発表日	平成 27 年 2 月 日	
	3 その他 発表の方法:		発表日	平成 年 月 日	

※ 学会等での発表及びその他の場合は、学会報等発表を証する資料を添付すること。

※ 配分を受けた翌年度の 3 月末までに提出

(研究の目的等)

本研究は、ネット社会の進展の中でビジュアルデザインの脱・紙化（非印刷媒体化）、環境問題との兼ね合いの中でのパッケージの簡素化（省資源化）など、紙媒体のあり方についての検討も求められている。

本研究は、静岡県の特徴ある地場産業分野である紙とデザインの関わりに焦点をあて、両者の関連の近現代の足跡を概観するとともに、これからの紙デザイン文化の展開の一端の展望に資することを目的としたい。

(研究の実施方法等)

- (1) 「紙とデザイン」に関わる基礎的文献資料の収集・分析
- (2) 「紙とデザインのいままで、これから」インタビュー調査（勝井三雄、鹿目尚志、金子修也3氏）
- (3) デザイン関連の紙の開発・生産、デザイナー連携などの経緯に関する情報調査
- (4) 紙デザイン文化の近現代史の概略整理、近未来の紙媒体活用の意義・役割

(得られた成果等)

1. それら研究・制作成果の概略については、今年の2月に芸術工学会誌で発表した。
2. ネット社会の進展や環境問題との兼ね合いで、紙媒体のあり方の再検討が求められている中、「紙とデザインのいままで、これから」のインタビュー調査を行い、その最終成果として、以下のような3つの課題が整理できた。
 - 1) 紙の文化性とデザイン（製紙企業の生き残りを図り、世界戦略の立て直す必要性について）
 - 2) パッケージデザインの原点（時代のニーズに応えるためにデザイナーが果たす役割）
 - 3) 紙とデザインのテーママップ（暮らしの中に人々が求めるエコデザインの未来像）